

5 一般県民向けオンラインワークショップの開催	5-1
5.1 目的.....	5-1
5.1 開催日時.....	5-1
5.2 実施方法.....	5-1
5.2.1 参加者の募集.....	5-1
5.2.2 実施体制.....	5-3
5.2.3 実施内容.....	5-4
5.3 実施結果.....	5-7
5.3.1 取組紹介.....	5-8
5.3.2 グループセッション	5-14
5.3.3 全体での意見交換.....	5-18
5.3.4 参加者アンケート.....	5-19
5.4 今後の方針・取組案	5-23

5 一般県民向けオンラインワークショップの開催

5.1 目的

沖縄県内における海岸漂着物の回収・発生抑制に関する活動を行っている個人、団体の交流の機会の創出、知識・ノウハウやアイデア、課題と対策等の共有によるそれぞれの活動のアップデートと拡大を目的として、沖縄県内外で活動する団体・個人を対象に、「一般県民向けワークショップ」を開催する。

5.1 開催日時

ワークショップの開催日時は以下のとおりである。Zoom を利用したオンラインにて実施した。

日時：令和6年3月2日（土曜日）

方法：オンライン（Zoom）

5.2 実施方法

5.2.1 参加者の募集

県が組織する海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ（以下「ワーキンググループ」という。）の他、国や市町村等の行政機関に対しては沖縄県環境部環境整備課が参加を呼びかけた。また、一般公募は県ホームページに掲載案内を掲載するほか、ワーキンググループより県内外で海岸清掃活動や普及啓発・環境教育に取組む企業や民間団体へ SNS 等を通じて参加を呼びかけた上で、インターネットから応募する方法とした。応募は事前申し込み制とし、応募者には申し込みフォームを利用した事前アンケートを実施した（図 5.2-1、図 5.2-2）。



図 5.2-1 ワークショップの開催案内（チラシ、県環境整備課 HP への掲載）



海ごみオンラインワークショップ2024 参加申込フォーム

開催日：2024年3月2日（土）10時～15時30分
 受付締め切り：2/29（木）
 お問合せ：沖縄県海岸漂着物発生抑制ワーキンググループ 事務局
 日本エス・ユー・エス(株) E-mail

nogami-d@janus.co.jp アカウントを切り替える

* 必須の質問です

メールアドレス *

メールアドレス

昨年のワークショップでご要望が多かった、参加者リストの共有のため、掲載予定の項目について、参加者同士への公開OKの情報にチェックを入れてください。

チェックを入れた情報は参加者全員に一覧リストの形で共有されます。

☐ 当日ご参加の方のお名前
☐ 団体名・活動名（代表者名）
☐ 連絡先住所
☐ 連絡先電話番号
☐ 連絡先メールアドレス
☐ 団体等のURL
☐ 主な活動地域
☐ 主な活動内容
☐ 活動紹介
☐ 情報のシェアは希望しない（→リストに載りません）

当日ご参加の方のお名前 *

回答を入力

団体名・活動名と代表者名 *
 （個人の方は「なし」で結構です）

回答を入力

連絡先住所（任意・公開OKの場合）

回答を入力

連絡先電話番号（任意・公開OKの場合）

回答を入力

連絡先メールアドレス（任意・公開OKの場合）

回答を入力

団体等のURL（任意・公開OKの場合）

回答を入力

主な活動地域 *

☐ 沖縄本島（北部）
☐ 沖縄本島（中部）
☐ 沖縄本島（南部）
☐ 本島周辺離島
☐ 宮古諸島
☐ 八重山諸島
☐ その他:

主な活動内容（複数回答可） *

☐ ビーチクリーン
☐ 海ごみに関する教育・啓発活動
☐ 海以外でのごみ拾い活動
☐ ごみの発生を減らす活動
☐ その他:

活動紹介（内容、規模、活動年数など、50～200字程度）
 （任意・公開OKの場合）

回答を入力

このワークショップにどんなことを期待しますか？（複数回答可） *

☐ 沖縄県のごみの取り組みを知りたい
☐ 沖縄県内の他団体の取り組みについて聞きたい
☐ 沖縄県内の他団体と交流したい
☐ 自分たちの課題を解決したい・アドバイスがほしい
☐ 海ごみについての知識を得たい
☐ その他:

活動をする上で課題と思っていることがあれば教えてください。（任意）

回答を入力

ご参加にあたってのご質問や、事務局に伝えておきたいことがあればお書きください。（任意）

回答を入力

図 5.2-2 ワークショップの参加申込フォーム

5.2.2 実施体制

ワークショップの実施・運営体制は表 5.2-1 のとおりである。

表 5.2-1 ワークショップの実施・運営体制

実施項目	実施内容	主な実施担当
①実施方針・基本計画	実施形態・規模・実施時期の検討と調整	沖縄県担当課・受託業者※
②参加者の募集	参加対象者の検討と募集(呼びかけ)	沖縄県担当課・受託業者・WG 構成員
③開催準備	開催内容の検討	第 1 回 WG 開催時
	関連資料作成、通信環境構築	受託業者
	ワークショップの詳細な内容検討、進行計画等の準備	受託業者・WG 構成員
④ワークショップの開催	議事進行	沖縄県担当課・受託業者
	議事進行への協力	WG 構成員
	司会・ファシリテーター	WG 構成員
	開催記録	受託業者

※受託業者：日本エヌ・ユー・エス(株)・(株)沖縄環境保全研究所 共同企業体

5.2.3 実施内容

(1)開催内容・参加者

ワークショップの開催内容を表 5.2-2、参加者一覧は表 5.2-3 に示す。

表 5.2-2 ワークショップの開催内容

「沖縄県海ごみワークショップ 2024 ～もっと知りたい ビーチクリーン～」

開催時間	開催内容・開催方法	発表者／ファシリテーター
		午前司会：WG 構成員⑦
10:00～10:05	沖縄県 開催あいさつ	沖縄県環境整備課
10:05～10:15	ワークショップの開催説明	事務局 (環境整備課)
	・開催趣旨、タイムスケジュール、事務局及び運営体制、参加者紹介など	
10:15～10:25	沖縄県の海岸漂着物対策について	
10:25～10:45	地域交流ワークショップの報告	
10:45～10:55	－ 休 憩 －	
10:55～11:30	台湾の取組紹介 「行政と海の架け橋に！台湾民間企業の海ごみ対策の取組」 澄洋環境顧問有限公司 Indigo Waters Institute Co., Ltd.	通訳：● ● ●
11:30～12:00	沖縄県内の民間活動紹介（WG メンバー以外）3 団体	県内民間団体
	1. 「沖縄を世界一海に優しい地域にすることを目指す」 一般社団法人しまぬわ 2. 「未来に残そう宮古ブルーPJ」 一般社団法人 NEREIS 3. 「まちから変えるうみの未来 ― 子どもたちが気軽に参加できる道路ボランティア活動の実践を通して」 神花きつず	
12:00～13:30	－ 休 憩 （お昼休み） －	
13:30～13:40	午後のワークショップの説明	午後司会：WG 構成員④
	・実施方法、テーマの紹介、ファシリテーター紹介等	
13:40～15:00	セッション1 自己紹介タイム	
	セッション2（海ごみゆんたく～もっと知りたい！ビーチクリーン～） ・テーマ1：海ごみやビーチクリーンについて知りたいこと、いまの悩みや課題 ・テーマ1の報告	
	－ 休 憩 －	
	・テーマ2：海にごみを出さないために ・テーマ2の報告	
15:05～15:25	全体での意見交換	
15:25～15:30	閉幕あいさつ	沖縄県環境整備課

表 5.2-3 ワークショップの参加者一覧

分類	機関、団体名	
主催者	沖縄県 環境部 環境整備課	
一般公募	28 名（団体・個人）	
沖縄県海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ	・ 沖縄県立芸術大学 ・ (一社) JEAN ・ しかたに自然案内 ・ 久米島ホテルの会 ・ 漫湖水鳥・湿地センター ・ (一社) 沖縄リサイクル運動市民の会	・ 那覇クリーンビーチクラブ ・ (株) マナティ ・ (特非) 宮古島海の環境ネットワーク ・ 石垣島アウトフィッターユニオン ・ (一財) 西表財団 ・ (公財) 沖縄こどもの国（沖縄県地域環境センター）
通訳	● ● ● 氏（環境フリーランサー）	

(2) アンケートの実施

ワークショップの開催後、参加者を対象にアンケート調査を実施した。アンケートは、インターネットにより実施し、ワークショップ参加者に Google Form を利用して行った。アンケートの設問内容は、ワークショップ全体への評価や良かった点、沖縄県海ごみ対策へのご意見やご要望など全6問とした（図 5.2-3）。



沖縄県 海ごみワークショップ2024 アンケート

開催日：2024年3月2日（土）10時～15時30分 オンライン開催

アンケート回答期限：3月10日（日）

主催：沖縄県 環境部 環境整備課
事務局・お問合せ：沖縄県海岸漂着物の発生抑制ワーキンググループ
日本エヌ・ユー・エス(株) 沖縄事業所

pirococo2002@gmail.com アカウントを切り替える

共有なし

* 必須の質問です

海ごみに関し、もっと深く／広く知りたいと思う内容があればお選びください。（複数回答可）

- ☐ 沖縄県の海岸漂着物対策について
- ☐ 東アジア地域のような近隣諸国の取り組みについて
- ☐ アジア地域にとらわれず、世界中の取り組みについて
- ☐ 沖縄県内の各団体の取り組みについて
- ☐ 県外の取り組みについて
- ☐ 海ごみだけに限らず、プラスチック削減の取り組みについて
- ☐ 普及啓発の取り組みについて
- ☐ その他

海ごみワークショップ2024



沖縄県の海ごみ対策について、ご意見やご要望があればお書きください。今後の参考にさせていただきます。（任意）

回答を入力

このワークショップ全体への評価をお教えください*

- ☐ とても良かった
- ☐ 良かった
- ☐ ふつう
- ☐ あまり良くなかった
- ☐ 良くなかった

次のうち、当てはまるものをお選びください（複数回答可）*

- ☐ 沖縄県の海岸漂着物対策について聞けて良かった
- ☐ 台湾の取り組みを聞けて良かった
- ☐ 沖縄県内の他団体の取り組みを聞けて良かった
- ☐ 沖縄県内の他団体の人と交流できて良かった
- ☐ 自分たちの課題解決のヒントやアドバイスをもらえて良かった
- ☐ 特に新しく得られるものはなかった

特に良かったと思う内容や理由があればお書きください。（任意）

回答を入力

ご回答いただき、どうもありがとうございました！

図 5.2-3 参加者アンケート

5.3 実施結果

ワークショップの実施状況を図 5.3-1 に示す。

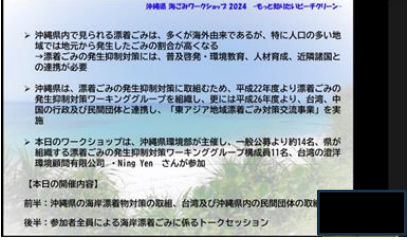
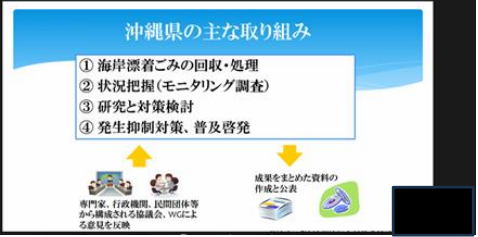
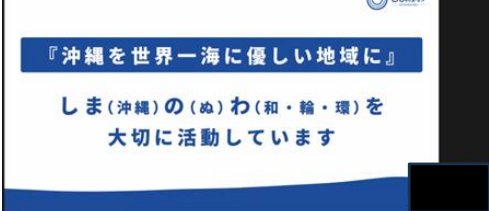
(省略) 参加者一覧(一部)	 開催説明 (沖縄県環境部環境整備課)
 沖縄県の取組紹介 (沖縄県環境部環境整備課)	 地域交流ワークショップの報告 (沖縄県環境部環境整備課)
 台湾の取組紹介 (澄洋環境顧問有限公司)	 沖縄県内の民間活動紹介 (しまぬわ)
 沖縄県内の民間活動紹介 (NEREIS)	 沖縄県内の民間活動紹介 (神花きっず)
(省略) 沖縄県の運営状況	(省略) 受託業者の運営状況

図 5.3-1 ワークショップの実施状況

5.3.1 取組紹介

取組紹介では、沖縄県、台湾、県内民間団体における全5件の取組紹介を行った。取組の概要を表5.3-1～表5.3-6に示す。

表 5.3-1 「沖縄県の海岸漂着物対策について」の説明概要

タイトル	沖縄県の海岸漂着物対策について
表紙	
発表者	沖縄県 環境部 環境整備課
内容	沖縄県の主な取り組みを紹介 〔①海岸漂着物の回収・処理〕：2011～2022年にかけ県、市町村で実施。6,329トン回収。 〔②漂着ごみ現況把握〕：2010～2022年にかけ県内23～31海岸を対象とした定期モニタリング調査を実施。年2,000から4,000トン漂着。PETは周辺国製が多いが、本島中南部の人口の多い地域では地元で排出されたごみが多い。沖縄県のごみに含まれるプラスチック類は全量の約6割を占める。マイクロプラスチック調査も実施。 〔③研究と対策検討〕：海岸清掃マニュアルや漂着状況の解説資料を作成。再資源化や有害物質の研究を実施。ごみの多い海岸と少ない海岸で、有害物質溶出量、生物中のマイクロプラスチック数、生物中の有害物質濃度を比較すると、全ての項目でごみの多い海岸で多いという結果が得られた。学識経験者等との会議を開催。4つの推奨事項が得られた。 1. 貴重な自然を有する海岸の回収 2. 漂着量の多い時期に回収を推進する 3. 発泡スチロールを優先して回収する 4. 調査結果を正しく伝え漂着ごみ回収の意義を理解してもらう 〔④発生抑制〕：2010～2023年にかけワーキンググループを運営。普及啓発教材の作成、教育の推進。東アジア地域漂着ごみ対策交流事業、公開ワークショップを開催。 今後は国の補助金を活用し回収・処理を継続していく、海外交流事業を継続する、定期的に調査を実施し発生抑制対策と普及啓発に取り組む。

表 5.3-2 「地域交流ワークショップ」の説明概要

タイトル	地域交流ワークショップの報告
表紙	
発表者	沖縄県 環境部 環境整備課
内容	・回収団体の少ない地域や、情報共有が十分でない地域において人材の掘り起こしや活動団体の連携・協力体制の確立、情報共有の場や協議の場の確保を目的として、沖縄本島北部の本部町、宮古島で地域交流ワークショップを開催。 ・第1部では沖縄県と県内活動団体の取組の紹介、第2部ではそれぞれの活動の状況、課題、これからの展開の3つをテーマに「えんたくん」を囲んで意見交換を実施。 ・活動の方法、行政との連携・手続きの簡易化、海ごみ情報マップ等による活動状況や海ごみの状況の見える化によるボランティア活動の活性化等の意見があった。 【ファシリテーターの感想】 ＜本部町ファシリテーター；WG 構成員④＞ ・沖縄本島は中南部に活動団体が多く、北部は漂着するごみは多いが団体が少ないのが課題。 ・ごみの多い場所や団体回収場所等の情報共有の場、仕組みがあるとよい。 ・自治体によりごみの処理方法が異なり、活動を始めたばかりの団体にはわかりにくい。情報共有が様々な断面で必要となっている。 ＜宮古島ファシリテーター：WG 構成員⑨＞ ・宮古島では海岸や町ごみの回収団体が増えている。共通点もあるがその目的や背景は多種多様。それぞれの得意分野や立場を活かして互いに補い合い連携し、行政とも連携していくことで今の課題が解決でき、活動も広がると期待する。宮古島以外での活動団体（WG メンバー）との交流も刺激になった。このような場が今後も持てるとよい。

表 5.3-3 台湾民間団体の取組「行政と海の架け橋に！台湾民間企業の海ごみ対策の取組」
の説明概要

【質】：質問者
【回】：回答者

タイトル	「行政と海の架け橋に！台湾民間企業の海ごみ対策の取組」
表紙	
発表者	澄洋環境顧問有限公司 Indigo Waters Institute Co., Ltd.
内容	【行政と NGO との懸け橋】NGO と台湾政府（環境部）との海洋廃棄物管理プラットフォームを設立。定期的に海ごみの管理方法や問題、対策について議論。意思疎通が円滑化し理解が進み、協力体制を構築。 【政府と司法との懸け橋】海ごみ問題への対処法がわからない県政府に対して、日本と韓国から専門家を招聘。調査手法を学んで実態調査を実施。結果、ごみの多い海岸に優先的に資本を投入し、様々な対策が実施されている。継続調査（2018 年～）で西側に多いこと、この 4 年間で漂着量が激減。 【科学者との懸け橋】研究者の調査内容をよりわかりやすく市民に伝える。メディアの需要と研究者の研究内容をフィックスする。 ＜今後の目標＞ ・台湾と世界との懸け橋になることを目標に活動。 ・ブイや刺網に漁業者名を記載することを提案。大きな反響を得て自分達の活動が有意義であると感じている。 ・海ごみは国境を越えた問題。多くの人が参加するほど問題解決の糸口が増える。これからもお互いに貢献すべく、広く交流していきたい。
質疑概要	【質】ここ 4 年間で漂着ごみが激減したとあるが、海岸に流れ出るごみの量は減っているか？ 【回】漂着ごみが減少した理由は不明であるが、補助金が様々な県に使われることで清掃活動が全体に広がったほか、リユースカップなど様々なサービスも増えたことも一因と考える。 【質】科学者との懸け橋におけるメディアの活用 【回】映像があるとメディアでも取り上げやすい。市民も理解しやすく興味を持たれる。

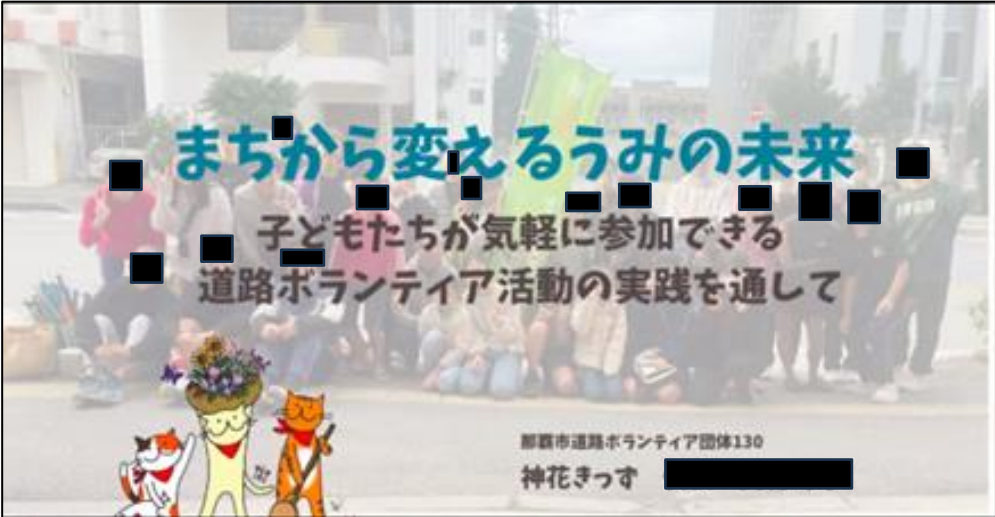
表 5.3-4 沖縄県内の活動紹介「沖縄を世界一海に優しい地域にすることを目指す」
の説明概要

タイトル	沖縄県内の活動紹介
表紙	
発表者	しまぬわ
内容	・ 海洋問題は、沖縄だけでなく世界の問題、沖縄からがんばっていこう、発信していこうという意気込みで沖縄で活動している。沖縄は海を大事にする人が多い、活動の盛り上がりが期待できる。 ・ 昨年 9 月「沖縄まるごとごみ拾い」という企画をした。40 団体、参加人数 1194 人が参加、子供たちも参加するイベントとなった。 ・ 沖縄を世界一海に優しい地域にすることを目指す団体だがどこか一つをきれいにしても解決とはならない。海洋と人間の良い循環関係について、その課題をしまぬわが解決し循環を成立させることを目指す。 ・ 今後の展開として、まずは、ビーチクリーン等の活動をする上で、情報がまとまっていないことが課題と感じた。そこで「ごみマップ」、「市町村ごとのボランティア支援情報」等が一括で見れる情報プラットフォームをつくる。その他「沖縄まるごとごみ拾い」のようなビーチクリーンも継続して行っていく。 ・ 沖縄を世界一海に優しい地域にする。そのような同じ方向むいている人たちと協力して活動していきたい。

表 5.3-5 沖縄県内の活動紹介「未来に残そう宮古ブルーPJ」の説明概要

タイトル	沖縄県内の活動紹介
表紙	
発表者	NEREIS
内容	【未来に残そう宮古ブループロジェクト】 ・ホテル 4 社が協力。海のそばにあるホテルに漂着物専用のごみ箱を設置してもらっている。 ・拾う人は捨てる場所に困らない。企業が分別し、市環境保全課がホテルへ回収に来る。 ・現在は 4 社の実証実験中だが、8 社くらいまで増やしてもいいと宮古島市担当課から了解を得ている。 【課題】バトンをつないでいくことが鍵。 ・少しずつ年齢層が上がってきていること、高校卒業後島を離れる人が多く大学生など若い層がいない。 ・海まで行くには車移動が必要で、若い人の思いがあっても活動できない点もある。 【今後の目標】 ・行政、企業、市民、観光客が一体となって、拾いやすく、拾いたいと思う環境作り。 ・不法投棄も多いので、ごみを捨てさせないアクションも起こしていきたい。 ・ごみを拾った善意が無駄にならないシステムづくりをやっていきたい。

表 5.3-6 沖縄県内の活動紹介「まちから変えるうみの未来 子どもたちが気軽に参加できる道路ボランティア活動の実践を通して」の説明概要

タイトル	沖縄県内の活動紹介
表紙	
発表者	神花きっず
内容	市道でごみを清掃する団体。始まりは引っ越ししてきた町の環境を良くしたい気持ちからで、今年で5周年を迎える。子どもたちと共に月1回、花の植え付け、水やり、チラシ配布は学校、ポスト投函、手渡しで実施している。ごみ拾いはごみを数えながら回収。集合場所で分別する。たばこの吸い殻、食品の包装、ビン、電池、ライターがごみの常連。分別ごみは那覇市の道路管理課を通して処理。現在、こども園から小中高校生、教職員、保護者、民生委員、青年会など153名が参加。13回参加した人もいる。活動継続の工夫として「参加者を増やすこと」、「無理をしないこと」、「楽しくする」に力を入れる。終了後にお楽しみを用意。お菓子のほか感謝状、ボランティア証明書、スタンプカード、缶バッチの勲章など参加者が楽しめる工夫を行う。マスコットキャラクターも作成。海ごみの取組はブルーサンタへの参加（青いサンタの恰好で清掃する活動）がきっかけ。町ごみが海ごみにつながることを知り、海を意識した活動に変化していった。「ビーチクリーンは町でもできる」 【良かったこと】町がきれいになった、楽しいことが増えた、海への関心が高まった、活動が自信につながった、地域に顔見知りが増えた。 【課題】活動の継続。誰が引き継ぐか。地域で循環して継続する仕組みを模索中。 【今後の取組】持続的な活動とすること、活動の横展開、学習プログラムの作成（映画の作成）など、子供達に活動の中心に入ってもらって子供達の面白いアイデアを生かしたい。 子供が受け身ではなく、地域や未来を創る人になるきっかけとして楽しく活動してほしい、子供から地域を、大人を、変えていきたい。

5.3.2 グループセッション

グループセッションでの各部屋の概要は表 5.3-7～表 5.3-13 に示すとおりである。

表 5.3-7 グループセッションの概要【テーマ1】グループ①

【テーマ1】海ごみやビーチクリーンについて知りたいこと、いまの悩みや課題 ＜グループ①＞
●企業としての責任 コンビニ周辺にポイ捨てのごみが多く、コンビニ由来の使い捨て（包装容器等）のごみが多い。企業側が責任を持った企業活動を推し進めるのもいいのでは。 海外で地域や海を汚しているごみのメーカー企業リストを公開している。 企業側にも責任感を持ってもらえる仕組みがあればよい。 沖縄ファミリーマートなら、沖縄県から何かしらのアクションができるのではないかな。 ●課題 継続。高齢化、地域の団体の連携も人手不足などで弱っている。 若い人たちの様子、自発的には関わらないが、課題があれば取り組むが長期的自主的には少ない。 アートでの表現。芸大生に作品でかかわってほしい。 MP ストーリーの輪を広げたい。 学生たちが鑑賞することで活動しだしたりするような実績がある。

表 5.3-8 グループセッションの概要【テーマ1】グループ②

【テーマ1】海ごみやビーチクリーンについて知りたいこと、いまの悩みや課題 ＜グループ②＞
・ウリ型の浮きが大量漂着している。エコ型のブイで中国の養殖場にて使用されているという Web 情報がある。 ・宮古では、産廃場がストップしていて、今はエコブイを潰して、燃やしている。エコと言って良いかどうかはわからない。水が半分入っている場合もある。 ・久米島では、一人で持てないくらい大きさの漂着ごみがあった。トン袋にはいらないので、業者が切断する。そのとき粉が出る。環境面で気になっている。 ・西表では、トン袋の運搬費で 4 千、処理費 6 千円で計 1 万を超える。運搬処理費は、県の助成金では足りない程度。 ・今年は、石垣に補助金が足りないという話があったので、石垣に補助金をまわしているという経緯がある。 ・久米島は、環境に負荷をかけずに清掃を行うため、土木会社の海岸清掃受託者に環境関係者を協力して行っている。 ・宮古も、ユンボの先にふるいながらごみを取れる工夫をしたが、市が委託してくれない。環境負荷(圧)は、人が行うより低いと業者は主張しているが、環境負荷(圧)は人より重機の方が高いのでそれは主張しすぎと感じている。 ・西表は若手がいらない。高校がないので、20 代前半が極端に少ない。小学生は年 1 回環境教育でビーチクリーンを実施するので、細かいことまで詳しい。

表 5.3-9 グループセッションの概要【テーマ1】グループ③

【テーマ1】海ごみやビーチクリーンについて知りたいこと、いまの悩みや課題 ＜グループ③＞
①ビーチクリーン活動のありかた ・大人が変わる必要がある。拾うことだけでも意味がないわけではない。「拾うことだけでは解決しない」などビーチクリーンをしている人を否定するのも良くない。 ②北海道での活動状況 ・海岸漂着物が沖縄ほど多くなく、ビーチクリーン活動はあまり盛んではないと思う。マイクロプラスチックも漁網繊維が最も多い。 ・漁業ごみが多いため、学校等での環境教育では漁業者（保護者）が悪者になることのないよう、気を使っている。 ③学習プログラムにおける課題 ・エコツアーで海岸のごみを回収するものが増えている。アクセスのよい海岸ではツアーが集中し、拾うごみがない。他のビーチは回収されていない現象が起きている。分散させる仕組みと担い手の育成ができるとうい。

表 5.3-10 グループセッションの概要【テーマ1】グループ④

【テーマ1】海ごみやビーチクリーンについて知りたいこと、いまの悩みや課題 ＜グループ④＞
●漫湖干潟のごみ拾い悩み相談 →干潟の清掃はビーチクリーンと違い、とても大変。腰まで泥につかったりする。 →干潟は回収がたいへん。回収作業で泥だらけになるが、拾うごみも泥だらけである。 →干潟に流れ着く前の町ごみの段階のごみ拾いの取組をはじめている →ごみ箱（拾い箱）の設置は有効と考えられるが、管理が重要となる。 →●●さんは毎朝散歩でゴミ袋1つのごみ回収を実施。 ●今後の交流 ・しまぬわのプラットフォームの取組は今後必要。 ・神花きっずの取組、しかたに自然案内の取組など、それぞれのノウハウの共有は重要。

表 5.3-11 グループセッションの概要【テーマ2】グループ①

【テーマ2】海にごみを出さないために ＜グループ①＞
・環境学習で使い捨てごみを減らす（→子ども達に伝えにくい、リサイクルにしたいという気持ちへの答え→子ども達の視点を変える→使わないように理解する） ・都市部の子どもたちのプラ問題への関心が高くなっている ・自分たちのお金で沖縄にきて、ごみ拾いをしているという事実が気が付く ・企業の賛同が大切 ・大人が変わる必要がある ・MP ストーリーは大人にも観てほしい。神谷さんの団体で上映会、西表の春美さん団体の姿も載っている。 ・ビーチクリーンの後にお菓子配る→それがごみになることを理解する。 ・PET は学校の自販機や売店に置かなければ買わなくなる ・産業まつりで脱プラをやるべき。石垣島まつりでは達成している

表 5.3-12 グループセッションの概要【テーマ2】グループ②

【テーマ2】海にごみを出さないために ＜グループ②＞
・神花きつつは凄い。街ごみに気づいていない人がまだ多い。 ・関心の無い人にどう伝えるか。与論島では、高齢者が地道に取り組んでいて、その姿を見ている他の人達は捨てられない。 ・自分事として捉えることが大切→気付いている人が継続→効果的に伝える→子ども経由で大人に伝える 例えば学芸会、学習発表会や意見発表会など。 ・昔の人は海から来るものは贈り物。自分たちが海に出すのも贈り物。年代による価値観の違いを一方的に責めるのではなく、会話をして変化させていく。 ・企業について、コンビニは店内にごみ箱があり外にごみが散乱している。ごみについて販売側の企業にも責任意識を持ってもらう。由利さんの活動をデータ化し、WG で伝えていく。

表 5.3-13 グループセッションの概要【テーマ2】グループ③

【テーマ2】海にごみを出さないために ＜グループ③＞
・発生抑制について、できることは教育である。10 年、20 年の未来を見据えて活動していくしかない。使い捨てをなくし、企業が PET の製造・販売をやめて、皆が水筒を使うような社会の変革を見据えながら、地道に教育を継続していく。 ・環境問題は 100 年をかけて問題化してきた。環境問題のスピードを少しでも下げることが重要で、100 年で顕在化してきたものを、今何かをやってすぐに結果が出るわけではない。少しでもスピード(角度)が緩む方向に向けば、僅かに活動の意義を感じる。そのような精神で諦めないで、今できることをやる。 ・現状、出前授業を行っている学校は 10 校くらいである。HP を見て補助してくれる企業はあるが、学校は予算がないため、学校からはお金はいただいていない。 ・学校の予算が少ないことが課題。教育委員会で予算を出して、皆が環境教育を受けられるような仕組みを作れば、コーディネーターも増え学校とのマッチングも良好になり、後任問題も解決に向かうのではと思う。

5.3.3 全体での意見交換

各セッションでの話題について、さらなる検討や情報提供、面白いと思った話題など掘り下げたい情報について全体での意見交換を行った。全体での意見交換の概要は表 5.3-14 に示すとおりである。

市町村との連携、活動団体・個人とのマッチングについての意見があり、黒潮クリーンアップサイトや自治体の窓口一覧の活用など、市町村と県、民間との連携方法についての提示や要望が挙げられた。

表 5.3-14 全体での意見交換

- ・先日、小笠原に行ったがごみがないことに驚いた。山道にもごみがない。数人にヒアリングしたが、小学校の遠足のルールでお菓子はジップロッカー袋分でお菓子の容器包装はそのジップロックにしまって帰るのがルールとなっている。非常にきれいな地域であった
- ・今月の半ばにビーチクリーンのイベントあると聞いたが、ご存知ないか。阿波連のビーチに参加する予定。そのような場で皆と繋がればと思う。
- ・ワーキンググループをこのメンバーで行っており、情報プラットフォームの役割があるが、少し発信が弱いと感じている。「しまぬわ」のような若い人たちで情報プラットフォームを作る動きがあるのは心強い。
- ・海ごみの清掃を実施したい時に、人が足りなければ、そのプラットフォームに参加を呼び掛けるような仕組みができればと思う。人材派遣のような機能を保有していればよいと思う。
- ・県外では、長崎県の対馬市での状況について。黒潮が分岐して日本海に流れていくところに位置する対馬では、漂着ごみ問題が深刻でさまざまな取組が行われているが、海ごみグリーンウォッシュ(利益を優先して、環境に配慮していると見せかける企業のビジネス戦略)は問題視しており、島でも懸念している。万博で対馬の漂着ごみ問題を取り上げており、外圧が強くなってきている。リサイクルすれば全て良いといった考えが出てきている。それも含めて全体感をもった正解を作っていくことが重要と考えている。

5.3.4 参加者アンケート

参加者アンケートの結果を図 5.3-2～図 5.3-7 に整理した。

アンケート回答者は

図 5.3-2 (Q 1) のワークショップへの評価では、「とても良かった」、「良かった」が回答の殆どを占め、「あまり良くなかった」が 1 件、「良くなかった」の回答は無かったことから、ワークショップは概ね好評だったと判断できる。

図 5.3-3 (Q 2) のワークショップの感想(選択式)では、「台湾の取り組みを聞けて良かった」、「沖縄県内の他団体の取り組みを聞けて良かった」、「自分たちの課題解決のヒントやアドバイスをもらえて良かった」の回答が多かった。

図 5.3-4 (Q 3) のワークショップの良かった内容とその理由(記述式)では、9 の回答があり、台湾の取り組みを知ることができた、県内の他団体の取り組みを知ることができた、他団体と交流する場をもてた、自身の活動の参考になった、など様々な回答があった。

図 5.3-5 (Q 4) の海ごみに関して知りたい内容(選択と記述式)では、選択と記述合わせて 56 の回答があった。選択式では「海だけに限らず、プラスチック削減の取り組みについて」、「アジア地域にとらわれず、世界中の取り組みについて」、「東アジア地域のような近隣諸国の取り組みについて」、「普及啓発の取り組みについて」の回答が多く、記述式では、「漁業から出るごみの発生原因とリユースの可能性および実態について」と回答があった。

図 5.3-6 (Q 5) の沖縄県の海ごみ対策への意見や要望(記述式)では、8 の回答があり、普及啓発・環境教育の推進に関する意見が多く出された。また、開催時期について、行政と民間の交流や連携についての意見もあった。

図 5.3-7 (Q 6) のワークショップへの意見や要望(記述式)では、10 の回答があり、交流の次段階として実践的なワークショップ、対面でのワークショップをやりたいという意見が多く出された。

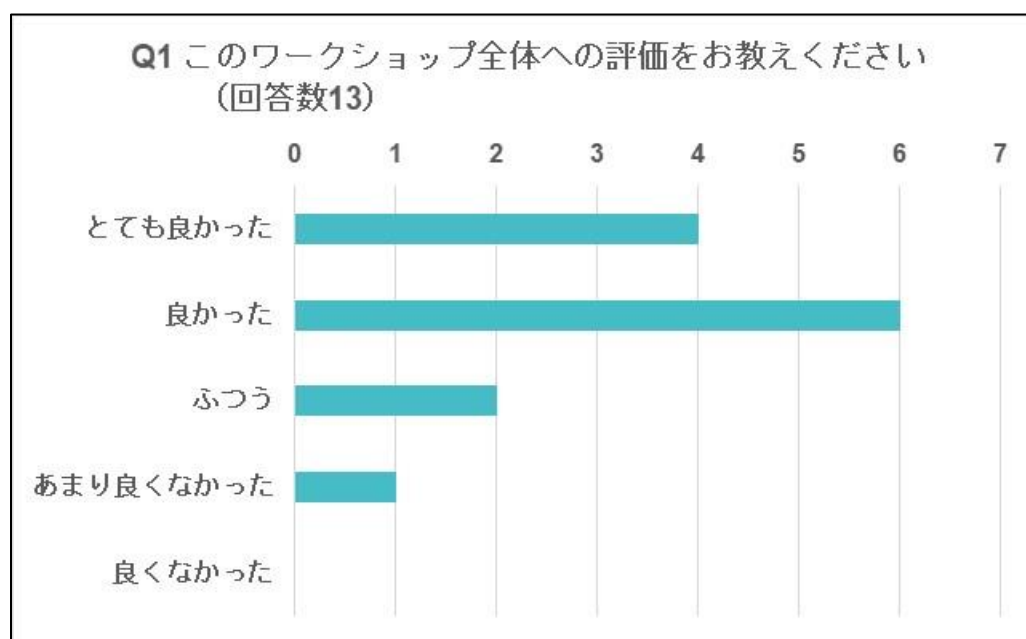


図 5.3-2 ワークショップへの評価（選択式） 回答結果

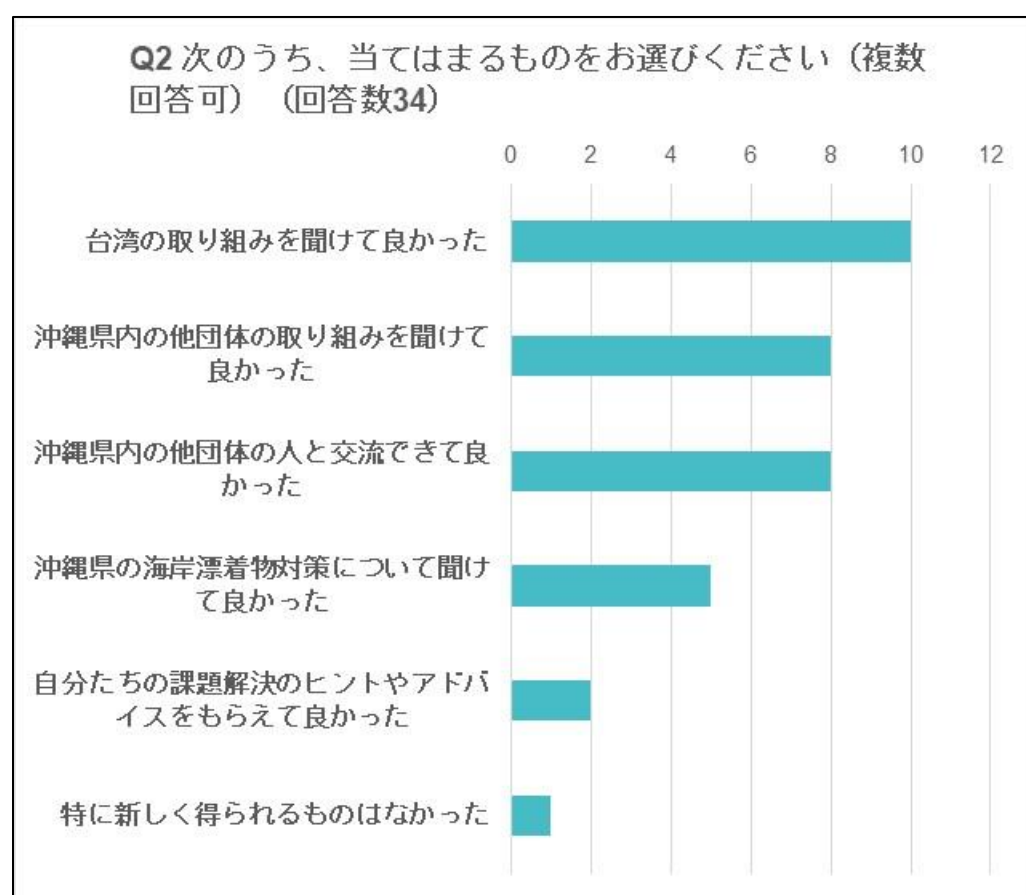


図 5.3-3 ワークショップの感想（選択式） 回答結果

Q3 特に良かったと思う内容や理由があればお書きください。（任意）

（回答数9）

- ・一般社団法人JEANの■■■さんのコメント。企業売る側の責任、地域社会活動、企業活動としての意義
- ・台湾や北海道のクリーン活動の状況が聞けて良かった。
- ・他団体の活動が知れ、自身の活動の参考になった
- ・町ゴミ削減の取り組みの話は、子どもたちや地域を巻き込んで広がっていて、素敵や活動だと思いました。
- ・台湾のお話
- ・いろいろな方と交流できてよかったです。また知りたい情報やつながりたい方とも出会えて収穫がありました！
- ・台湾での政府との協力のあり方、ごみ拾いだけでなく漁具の種類を変えたり名前をつけさせるなど実際に発生抑制がおこなわれていること。台湾の取り組みは、実際に世界に通用する内容であること。
- ・県の取り組みについてや調査結果を伺えるのはやはりありがたいです。また、こうして県と一緒に参加いただけるイベントがあると、県も一緒に取り組んでくださっている気がしてとても嬉しく感じます。またいろんな経験をお持ちの皆さまと一緒に課題解決にむけてお話ができるのもすごくありがたいです！参考になることばかり！！
- ・海外の先進事例や県内の若者の取り組みがとてもよかった

図 5.3-4 ワークショップの良かった内容とその理由（記述式） 回答結果

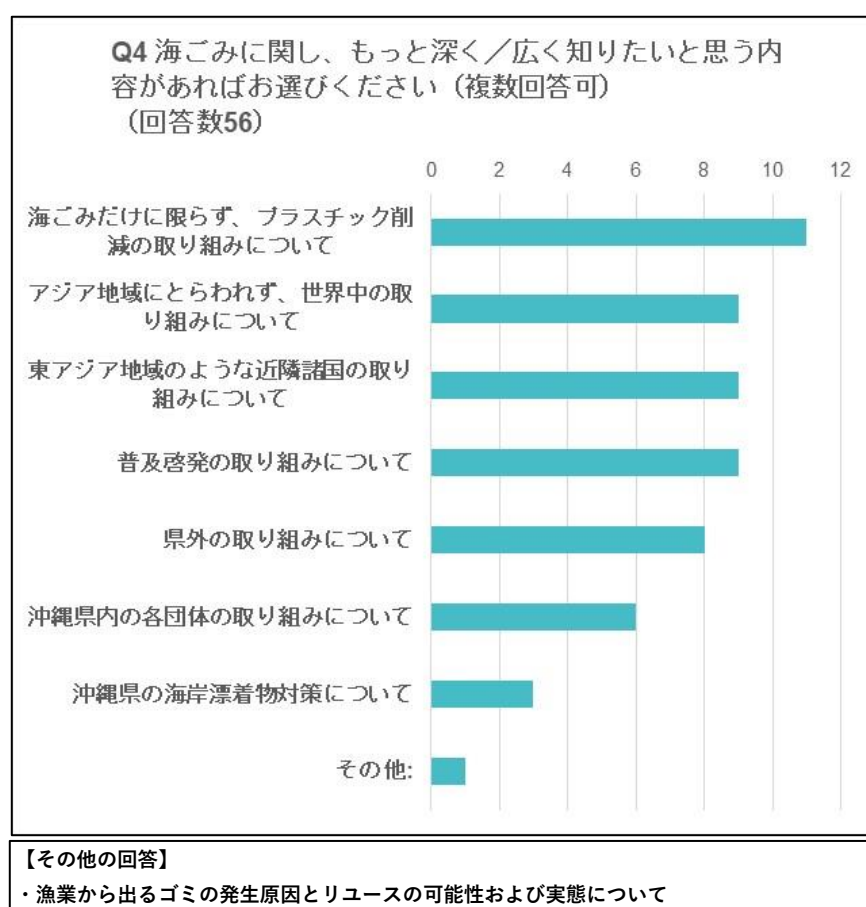


図 5.3-5 海ごみに関して知りたい内容（選択と記述式） 回答結果

Q5 沖縄県の手ごみ対策について、ご意見やご要望があればお書きください。今後の参考にさせていただきます。（任意）（回答数8）

- ・県の方もビーチクリーンに参加して現状をみていただきたい。
- ・もう少し開催時期を早めて欲しい
- ・行政として、ゴミ回収に予算をかけるのも大事だが、ゴミ削減のための教育にも予算をもう少しまわしてほしい。
- ・沖縄県は海に囲まれているからこそ、海ごみ対策や啓発活動をリードしておこない、日本一海がきれいな県になるべく取り組んでほしいです。活動している市民や団体、企業への賞や市民ポイントのような取り組みもあったら良いと思います。
- ・海のごみを減らすために、市民による海ごみ対策活動・教育普及への予算をもっと取ってきて、有効に使って欲しい。
- ・以前のワークショップでも意見があがっていましたが、県以外の市区町村の担当者の方とも交流できる機会があったら非常にありがたいと思ったりしますが…県、市区町村、民間で一丸となってアイデア出しなどできたら嬉しいです。
- ・糖尿病に例えると、ゴミ回収は服用と同じことなので、食事制限や適度な運動に相当する取り組みの強化が必要だと思います。県の取り組みをもっと発生源対策に重点を置いてほしい。
- ・早く告知し、夏に実施できたらもっと盛り上がると思います

図 5.3-6 沖縄県の手ごみ対策への意見や要望（記述式） 回答結果

Q6 こうした公開ワークショップの形や内容、テーマなどについて、ご意見やご要望、事務局に伝えたいことがあればお書きください。今後の参考にさせていただきます。（任意）

（回答数10）

- ・県外からの参加を受け入れていただきありがとうございました。近隣に同様の活動をしている方があまりいないので、良い機会になっています。
- ・鹿谷さんの進捗がとてもわかりやすく、zoomの機能を使って良かった。
- ・ワークショップの目的、ターゲットをもう少し明らかにし、時間を短めにし、内容を絞った方がよいかもしれない。
- ・間際になって情報が届いたので、もう少し早く知れていればもっと周りに参加を呼びかけできたかもしれない。
- ・事務局のみなさま、お世話になりました。ありがとうございました。
- ・団体の顔つなぎの次の段階の、実践的なワークショップ（技術や情報の共有など）もやってほしい。
- ・オンラインだけでなく対面でもやってみたい。
- ・今回は仕事をしながらの参加で、十分内容を把握していませんので誤解しているかもしれませんが、久しぶりの参加でしたが、正直に言わせてもらおうと、昔とそう大きく変わっていない印象です。「子供の環境教育の成果は10年後20年後に」、との意見もありましたが、すでに10数年は経過しているわけで、では成果は？と聞きたいです。これまでの取り組みの成果（海洋ゴミ削減）についても共有したい。
- ・発生抑制の話題が取り上げられたのが良かったです。もっと深めたいです
- ・対面でのワークショップができるとよいと思います。オンラインの良さ（移動時間が不要、離れたところからも参加しやすいなど）もありますが、直接顔を合わせることで、その日に参加して終わりではなく、次の何かにつながっていきやすいように思います。

図 5.3-7 ワークショップへの意見や要望（記述式） 回答結果

5.4 今後の方針・取組案

本ワークショップの参加者は午前の情報共有についてはワーキングメンバー10名、沖縄県担当職員1人を含め28名の参加を得たが、午後のワークショップ参加者は16人で、一般参加者が5人に留まった。そのため、午後のワークショップは5つのグループに分かれて議論する予定であったが、3〜4つのグループに分かれての議論となった。また、1つのグループにワーキンググループメンバーが複数人参加するのに対し、ワーキングメンバー以外の参加者が1〜2人となるなど、グループ内での参加者の偏りが見られた。原因として、開催情報が十分に伝わっていないこと、開催期間が他の行事や繁忙期と重なったこと、また、開催時間が午前から午後と長く、参加しづらいといった点が挙げられた。今後の方針として、開催情報をより早い時期からSNS、県HPへの掲載、ウェブチラシの配布等の複数の手法を用いて広く周知すること、開催時期について繁忙期や年度末など行事の多い時期を外して検討すること、開催内容については参加者が参加しやすい時間帯を検討するとともに、地域交流ワークショップと県民ワークショップのそれぞれの役割や目的を明確化しながらより参加しやすい内容とすること、が考えられる。

ワーキングメンバーを含めた参加者の事後アンケート結果からは、参加者の満足度の高い結果となっていた。良かった理由として、沖縄県内外の取組を知ることができ自身の活動のヒントや気づきを得られた点や、他団体とのつながりを得る機会となった点があげられおり、様々な団体が交流し、情報を共有することが沖縄県の海岸漂着物問題において必要とされている点であることが確認できた。このようなワークショップ以外にもプラットフォームを立ち上げる動きもあり、黒潮クリーンアップサイトの重要性と更なる活用法について検討する必要があると考えられる。

本ワークショップは「もっと知りたいビーチクリーン」をテーマにそれぞれの活動内容や課題、工夫などの情報交換を行い、横のつながりを広げることを目的として実施した。開催内容や方法については、より実践的な内容をテーマとすることも想定される。参加者のモチベーションや経験は様々であるため、ワークショップを継続して開催していくことで、段階を踏んだテーマの想定も可能となると考えられる。

また、オンライン開催以外に、対面開催の要望もあった。オンライン開催では移動時間がなく、より多くの地域から参加できるメリットがあるが、対面開催ではより広い人脈形成や自由な議論や情報交換が可能となるメリットがある。両者のメリット・デメリットを踏まえながら対面開催の可能性も検討する必要がある。

また、要望や課題として、回収とともに普及啓発にも注力し、沖縄県が海ごみ対策や啓発活動をリードしてほしいという意見もあった。ワーキンググループでの検討を通じた効果的な取組を継続し、他県をリードしていく存在となることが期待されている。

6 令和 6 年度の発生抑制対策の検討	6-1
6.1 概要.....	6-1
6.2 発生抑制対策の取組内容（案）.....	6-1

6 令和 6 年度の発生抑制対策の検討

6.1 概要

令和 6 年度において沖縄県では、令和 5 年度沖縄県海岸漂着物等地域対策推進事業に引続き、沖縄県海岸漂着物対策地域計画（以下「地域計画」という。）に基づいた「海岸漂着物等の回収・処理」及び「海岸漂着物等の発生抑制対策」に係る調査検討や対策事業を実施する予定である。

6.2 発生抑制対策の取組内容（案）

令和 6 年度の発生抑制対策の取組内容(案)については、今後必要となる発生抑制対策の検討項目を第 2 回海岸漂着物の発生抑制対策ワーキンググループ（令和 6 年 3 月 22 日開催）において検討しており、これを踏まえて次ページ表 6.2-1 のとおり整理・検討した。

表 6.2-1 令和 6 年度以降の発生抑制対策の検討(案)

※**赤字**: 新に追記した取組項目・内容

※**青文字**: 県内で限定的あるいは継続的に取組まれている

※**緑文字**: R05 第 2 回 WG の議論を踏まえて加筆したもの。

取組項目	取組内容(案)
①ワーキンググループの設置・運営	・本業務で組織・運営する WG を今後も継続し、海岸漂着物の発生抑制対策に係る課題と対策方針、更にはその実行性を高めるための協議を行う。開催回数は年 2～3 回程度とする。 ・県主催の環境フェアへのワーキンググループとしての参加。
②陸域からの発生抑制対策の検討・実施	・地域あるいは流域圏単位において、主に市民生活、地域産業、関係行政がそれぞれあるいは連携して目標を持ったごみの排出抑制に取組む体制の検討。 ・使い捨てプラスチック容器等減量に係る普及啓発の検討(官民連携により、主にイベント運営者、参加者それぞれ個別に実施)。※地域の小売店、釣人への普及啓発も検討する。また、脱プラスチックに係るイベント開催も検討する。 ・県内の大規模なイベント等(県産品イベントやマラソン大会等)におけるプラスチック容器の削減(マイ食器やリユース食器の導入等)に向けた県内の多様な関係者が連携した取組実施。※県内で実績あり。準備と実施で 2 年度に渡る取組が望ましい。 ・大手のファーストフード店との連携によるプラスチック容器減量の取組検討。
③海域からの発生抑制対策の検討・実施	マリンレジャー等の観光業、漁業従事者、海を利用する住民や観光客等を対象とした発生抑制対策として、①R04 年度から引続き情報収集対象の拡大と市町村による調査継続、これを受けた対策検討、②海の利用者、利用業界、市町村を対象とした普及啓発の実施、ワークショップを開催、③海域からの発生抑制対策に係る普及啓発方法の検討・教材作成。
④県内各地域における対策に係る課題抽出と対応策	過年度の沖縄県事業により、県内で求められている発生抑制対策や環境教育・普及啓発の内容は各地域により様々であるため、各地域に適応した発生抑制対策や環境教育・普及啓発方法を調査・検討。
⑤人材育成の取組	発生抑制対策に係る人材が不足しており、県主導で人材育成の支援実施を行う。 ・学校の環境教育に対する民間団体の支援や連携について、事例集の形で調査・整理する。 ・県内各地域の事情に応じた人材育成の取組方法の検討と、試行的実践。 ・県内では海岸漂着物の発生抑制対策に係る人材や後継者が不足している状況から、次世代を担う大学生やボランティア清掃活動を実施している者が学校の出前授業や海岸清掃活動の現場で活用できる環境教育・普及啓発プログラムを検討する。 ・普及啓発、環境教育、海岸清掃活動を主体的に実施する人材の育成。 ・中高生あるいは大学生がワーキンググループの議論に参加できる機会を検討。更には合同による海岸清掃などの活動を組み合わせる。あるいはワーキンググループメンバーが関わる座談会的なイベントを検討。 ・【地域交流ワークショップ】活動団体が少ない地域(例: 県北部など)における情報交換の場の創造。活動団体の少ない地域でボランティア清掃を行っている団体を対象に海岸漂着物に関する講習会や情報交換会を実施し、県内団体の活動の底上げを図る(R05 年度に事後アンケートで要望の多かった「工夫やアイデア」、「プラスチック削減」、「行政との連携」にテーマを絞ることも検討する)。
⑥環境教育・普及啓発	・民間団体による学校での環境教育については、対象校の拡充や継続的な実施の

の推進	ため、行政（県・市町村の廃棄物担当部局及び教育委員会等）、民間の連携・協力体制構築が必要。 ・ 海岸漂着物に係る環境教育については、現状は県内各地域で内容やレベルがまちまちである。この課題を地域毎に解決するのは困難であり、県が主体となって進める。
⑦ 普及啓発教材の有効活用	・ 過年度の沖縄県事業では、様々な環境教育・普及啓発教材やプログラムが検討・作成されてきたが、それらが必ずしも有効活用されていないこと、また、増刷の要望が高い教材があることから、これらの課題に対応する。 ・ 環境教育プログラムの共有と環境教育・普及啓発の活動報告、活動報告を踏まえたより効果的な活動内容の検討。
⑧ 海外交流事業計画・運営	・ 官民の取組の情報共有。 ・ 海域、陸域からの発生抑制対策に係る課題の整理と対策実施のための協議 ・ 情報共有プラットフォームの継続的な活用と運用
⑨ 一般県民向けワークショップの開催	・ 県内で海岸漂着物の回収や普及啓発活動を実施している企業、民間団体、住民を対象として、県内の官民それぞれの取組や東アジアの取組を共有しつつ、今後の活動内容を考えるためのワークショップを開催する。このワークショップは継続する事が大切であり、計画的な参加者の募集・効率的・効果的な開催に向けて開催時期を決定。 ・ 参加者やテーマを絞ったWS開催も検討する（例えばテーマを「ビーチクリーンの交流」、「発生抑制の議論」など）。また対面による開催も検討する。 ・ 地域交流ワークショップと組合せた継続的な取組内容の検討（地域交流WSでは団体間の情報交換や連携を目的とした対面形式、県民向けでは情報交換や知識向上等を目的としたセミナー形式とするなど、地域交流WSと県民向けWSのそれぞれの役割を検討）
⑩ その他	・ 県内における情報交換の場の継続的な提供と活用。黒潮クリーンアップサイトの拡充と運営、活用方法の検討。 ・ 市町村の役割分担、体制の確認を目的として市町村の受入窓口、受入体制等をまとめた案内を作成。民間団体と市町村の連携強化、漂着物回収活動の円滑化を推進する。